



日本共産党  
北茨城市委員会  
浦和町登田1920-2  
毎週 日曜日発行  
インターネットでも  
ご覧いただけます  
http://kth.geo.jp/jcp

ご相談は  
お気軽に  
市議会議員  
福田 明  
43-0468  
市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462

# 自己負担なしで 特定健診(国保加入者)

## 1000円を市が補助

医療法の改正により、これまでの基本健診40才以上対象に代わって今年度から「特定健診」が実施されます。40～75才未満を対象に、生活習慣病などの予防を重視した検診制度です。最大の特徴はメタボリックシンドローム対策として腹囲の測定が加わったことです。厚生省は「腹囲が男性は85cm、女性が90cmを超える

と高血圧、糖尿病などの生活習慣病になりやすい。この健診制度の導入によって2015年度までに生活習慣病とその予備軍を25%減少させ、25年度には医療費を2兆円削減できる」としています。ただし効果を疑問視する医師も少なくありません。特定健診の実施主体は各自治体です。健診でメタボ

と判定されると、体質改善などの保健指導がおこなわれます。その成果が今後の国の補助金の査定にもひびくとされています。

今年度の市の特定健診の対象者は約1万人(国保加入者)で、受診目標人数は30%の3千人です。他の自治体でかかる自己負担額千円を

本市は無料にすることが3月の議会で決まっています。健診は、日立メディカルセンターや民間の病院でも受けられますが、「市立総合病院で受けていただく」と、市(国保)の負担額がいちばん軽くなる」ということで、市立病院での健診を市では期待しています。

**市役所新人事(敬称略)**  
市長公室長 白橋 茂  
環境産業部長 大友正道  
都市建設部長 駒橋源四郎  
議会事務局長 鈴木利和  
教育次長 長瀬正則  
福祉事務所長 蛭田 恵

展示の工夫・改善につとめるとしています。

「専門的知識のある学芸員が必要ではないか」との鈴木議員の問いに、市長は「必要性はわかるので今後検討する」と答えました。

## 地元のアピールで 施設運営を

3月26日、「マウントあかね」や雨情記念館を管理している「ふれあい財団」の理事会が開かれました。

マウントあかねでは、昨年度からの経営改善策が功を奏してきました。レストランでは、仕入れや加工の手間をかけることで原価を低く抑えつつ、利用者の好評を得て、じっさいの利用数も増えています。

理事の鈴木やす子議員は、以前から指摘してきた地産地消のいっそうの推進を求め、「なにより地元の人の口コミが決め手であり、地元で喜んでもらえる視点」を強調しました。

雨情記念館では、公民館まつりの展示物を交代で展示する取り組みが始まって

## 「後期高齢者医療制度」に

### 茨城県医師会が反対運動

茨城県医師会は「後期高齢者医療制度」の撤回運動を展開していくとして、下

記のような声明を発表しました。左は、医師会が作成したポスターです。

差別する制限医療を目的とすることが明白であります。このような政策は、文化国家政府の許される行為ではありません。茨城県医師会は、「後期高齢者医療制度」の撤回を求め、次のように運動を展開することといたしました。(以下略)

(城県医師会のホームページから)

**みなさん、こんな高齢者いじめの制度が許せますか!**

- 75歳になったらこの制度に強制加入!
- 年金から保険料が自動的に天引き!
- 保険料を滞納したら保険取りあげ!
- 自由に医療機関を選べなくなります!
- 70～74歳の方も窓口負担1割→2割に!

**我々は後期高齢者医療制度に反対し、撤回を求めています。**

これは、高齢者の生活を脅かす危険な制度です。

茨城県医師会 TEL:029-244-0000 FAX:029-244-0001

今日の我が国を作り上げた高齢者の生活は、社会が支えなければなりません。この度の後期高齢者医療制度は、医療費抑制だけの目的で我が国伝統の親子関係まで分裂させて、わずかな年金から新たな保険料を徴収し、さらに年齢により人間の価値を

## 「合併しない宣言」の矢祭町、根本前町長が講演

3月22日、「ご近所声かけ隊全体会」と「北茨城市ポ

ランティアグループ連絡会自主講座」の共同企画として「安心まちづくり講演会」が、ふれあいセンターで開催されました。

講師は矢祭町の町長、根本良一氏。24年間の町長時代の取り組み、そして「合併しない宣言」前後の議会と行政・職員のがんばりが語られました。

「地方自治とは自分たちのことは自分たちで決めるということ。その当たり前のことを書いてきた」と述べていたのが印象的でした。

